

JAグループ広島東日本大震災支援隊

第2班（福島県）支援活動～絆～情報

平成25年9月26日
情報No.2

農業協同組合 御中
農業協同組合連合会 御中

JAグループ広島東日本大震災復興・再建対策本部
(JA広島中央会 総務部)

支援活動状況について

活動日	平成25年9月25日(水)	天気	曇り のち 一時雨
活動場所	活動概要のとおり		
活動概要	<p>平成25年度東日本大震災たすけあい運動支援隊第2班の活動2日目は、初日と同じ場所でメンバーを変えて始まった。その後、こちら矢野目店、矢野目モニタリングセンターを全員で視察した。</p> <p>概要は次のとおり。</p> <p>(1) 西部共選場 (メンバー：尾道市、三原、厚生連)</p> <p>西部共選場では、昨日と同様、20世紀梨の選果箱詰め作業と豊水梨の箱詰め作業支援に分かれ支援を行った。</p> <p>豊水梨の箱詰め作業支援は、昨日と同様に、次々と箱詰めされていく豊水梨の箱を運ぶのに、支援隊員はてんてこ舞いとなった。</p> <p>しかも、この日は14時過ぎには支援活動を終了し、矢野目モニタリングセンターを視察することとなっており、先日の庭坂共選場と同じく、選果作業の完了を待たず、西部共選場を後にすることとなった。</p> <p>(2) 庭坂共選場 (メンバー：全農ひろしま、共済連広島、基金協会、農協観光)</p> <p>庭坂共選場も、昨日と同様に梨の選果箱詰め作業に従事した。</p> <p>庭坂共選場は、昨日の大量出荷から一転、出荷量が少なく、支援活動の終了時刻14時で、選果作業をほぼ完了することができた。</p>		



(3) (株) 新ふくしまファーム

(メンバー：福山市、広島北部、三次、庄原、中央会)

まず最初に、石橋専務より、(株) 新ふくしまファームの設立の経緯を説明いただいた。水稻と野菜の担い手育成を目的にJA出資98%で設立され、現在、研修生5名を含む10名で運営しているとのこと。ただし、東日本大震災の影響もあり、昨年の売上が1,000万円にとどまり、資金面の改善が課題とのこと。

その後、武藤様より、ファーム内のきゅうり栽培用ビニールハウスや、研究用の綿花畑、タラの木の栽培畑等を説明いただき、大根の摘葉、キャベツ畑の草削りに従事した。

途中、小雨に見舞われたが、すぐに止み、支援隊活動に支障はなかった。



(4) 矢野目モニタリングセンター

今野危機管理センター長様より、モニタリングセンターの説明を受けた。センターでは、米以外のほとんどの物を対象に、放射線の測定を行っており、年間3万件の検体が農家より持ち込まれている。現在19品目が、基準を超える放射線量から出荷制限となっている。

このような厳しい検査により、福島県産農産物の安全、安心は科学的に立証されている。



明日は、4軒の農家での農業支援と、東日本大震災で津波被害を受けた相馬方面の視察を予定している。